

※学校評価から見た学校経営の重点と努力内容 (533名/609名)

○温かみのある学級づくり

(6)学校に行くのは楽しいと思うC+D 7.0P 37名 →A+B100%を目指す

(11)いじめられたり、無視されることなく安心して活動できているC+D 1.5P 8名 → 0名を目指す

○満足感のある授業

(2)授業はわかりやすいと思うC+D 4.5P → 自分の教科はどうか

(3)授業では、自分の考えを持ち、自ら取り組んでいる C+D 11.8P 63名 → 授業改善を進める

(4)授業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができているC+D 18.8P 100名 → 授業改善を進める

○心と体の教育の推進

(7)学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいるA+B 92.5P → A+B100%を目指す

(8)生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいるA+B 78.0P → A+B100%を目指す

項目	<分析> ○成果、▲課題	<改善策> □後期(継続・改善)、■来年(発展・変更)
か み の あ る 学 級 づ く	○ 生徒はおおむね安心して生活できている。	□ 今後も全員で生徒にかかわり続けていく。アンケートの継続やデ イリーライフでの観察、交流を続けるなど丁寧な対応を心がけ、生徒 全員が「楽しい」と思えるよう支援していく。
	▲ 全学年とも、3%弱の生徒が、「楽しい」と感じていない。	□ OQの結果を生かし、学級経営の改善をしながら、生徒理解に努め、 支援していく。
		□ 生徒の自己肯定感につながるよう、細かな声かけに心がける。成功 は大きく評価し、失敗は原因を共に考え、次の成功につながるよう 支援していく。 □ 懇談の時間を確保し、積極的に関わっていく。
満 足 感 の あ る 授 業	○ 生徒の授業アンケート「自分の考えを持ち、伝え合うことができる」は 全教科を通してみると、肯定的な意見が89.3%→88.9%と変わ らず高い結果になっている。 生徒の学校教育活動についてのアンケート「授業では、自分の考えを 持ち、自ら取り組んでいる」の肯定的な意見は88.9%→88.2%と 変わらず高い結果になっている。	□ 引き続き、「自分の考えを持つ手立て」を意識して授業を行ってい く。各教科部会で共通実践を共有し、少しずつ「自分の考え」の 内容や表現の仕方の質を高められるようにしていく。
	○ 生徒の学校教育活動についてのアンケート「授業のルールを意識 し、意欲的に授業に参加している。」の肯定的な意見は96.2% →97%、「授業がわかりやすいと思う」の肯定的な意見は92.4% →95.5%と変わらず高い結果になっている。	□ 引き続き、子供主体の授業を意識して取り組んでいく。学年が上 がり、学習内容が難しくなると「よくあてはまる」の割合が減る傾向 にあるため、基礎基本の定着も重視していく。
	▲ 生徒の授業アンケート「振り返る時間がある」は全教科を通してみ ると、肯定的な意見が89%→87.7%であるが、「あてはまる」は3 6.1%→32.8%と少し減少している。生徒の学校教育活動につ いてのアンケート「授業では、自分で考えたことやわかったことを表現 することができている(…)」は18.8%の生徒が否定的な回答をして いる。	■ 「自分の考えや学びを振り返ること」を意識して授業を行ってい るが、時数やタイムマネジメント、教科の特性などとも考えられ る。教科部会でまとめや振り返りについてより効果的な取組を共 有・実践していく。また、教科による差や学年・学級による差も見 られるので、教科を超えた実践の共有も考えていきたい。
	▲ 「家庭学習の習慣」で「よくあてはまる」は30.5%であり、身に ついていない生徒は19.6%だった。一方で保護者の回答は「よくあ てはまる」14.3%、身につけていない生徒は35.3%だった。【1年】	□ 「教科担任からは身だしなみを持った家庭学習の課題を提示し、習慣をつける。 ・学級担任からは自学ノートの内容について自分に必要なことを見極め主体的に学 習できるように指導する。クラスでの自学ノート回覧にも取り組む。 ・学年通信を通して学校からの課題についてやコンテストの予定など発信してい き、保護者の理解や協力も得られるようにする。
	▲ 「家庭学習の習慣」で「よくあてはまる」は29.3%であり、身に ついていない生徒は22.8%だった。【2年】	□ 今後も学習担当や教科担当、担任から、予習や復習で何をしたらよ いのかを、継続して伝え続ける。自分の学習課題を把握し、何を学 習したらよいのかを考え、主体的に学習する力を身に付けさせてい く。
	▲ 「家庭学習の習慣」については、「身に付いている」と肯定的に回 答した割合が昨年の同時期より3.6%減少している。【3年】	□ セミナーなど最低限の学習を短時間で「やるだけ」の生徒が多いた め、自分の目標に向かって、「どこまで」「何を」取り組む必要が あるかを考えさせていく。
心 と 体 の 教 育 の 推 進	○ ルールやマナーについての基本意識は高い。	□ 今後も、生徒の良さが継続するよう、気づいたときにすぐに対応す ることを続けていく。
	○ 概ね安心して生活できている。先生のポイントが低いが、認知件数が昨 年同時期よりも増えているためと考えられる。	□ アンケートやデイリーライフなどでも継続して様子を見ていく。
	○ 「生徒会・委員会活動に関心」では「よくあてはまる」に31.1%が 回答している。【1年】	□ 来年以降の生徒会を担うことを視野に入れ、リーダーの育成を 目指す。集会の入場など、小さなことから、指導しやってみて成功す ることを経験させていきたい。
	○ 「学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる」生徒 が、92.9%いる。【2年】	□ 後期は2年生が、学校をリードしていく立場になるので、より主 体的に取り組む力を身に付けさせていきたい。
	○ 「授業で、自分の考えを持ち、…」では、考えを持てる生徒が年を追って増え ている。課題を理解し、徐々に積極的に取り組むようになっていく。「授業では、自 分で考えたことやわかったことを表現…」でも同様に数値が向上している。	□ ペアやグループでの教え合いの効果により、考えを整理し、自分の 考えに自信をもつことができやすくなった。小さな進歩を認め、褒 める姿勢を継続していく。
	○ 「学級内や校舎の美化に努めている」では、昨年度より美化意識が 向上した。個人のロッカーは個人差が大きい。	□ 個人の力にまかせるのではなく、学級及び学年全体で美化に努める 取り組みや雰囲気を作っていく。
	▲ 行事への関心、生徒会・委員会活動への関心、美化に努めるの項目で、 よくあてはまるの数値が昨年と比較して小さい。よくあてはまる+あ てはまるの数値はそこまで変わらない。	□ その行事をどう取り組むかということを生徒に考えてもらう機会を 大切に、各委員会や清掃への取り組みを増やしていく。
	▲ 「さわやかな挨拶ができている」に対して「よくあてはまる」が 32.7%、15.7%が「あまりできていない」と回答している。【1 年】2、3年でも似たような割合の回答だった。	□ 北星中学校の伝統である「あいさつ」ということを意識させると ともに、教師も自ら爽やかな挨拶を心がけ、やってみてやらせて褒 めて育てる。委員会などの活動からも挨拶の活動に取り組みさせたい。 挨拶の大切さを伝え続けていく。
▲ 安全指導に対する保護者のポイントが低い。	□ 家庭で安全についての注意喚起をしやすいうように生徒指導だよりや totoruでの情報発信を増やしていく。	